

第3回日米大学図書館会議開催さる

日米両国における大学図書館が共通に直面している諸問題を、はば広い観点から研究討議して協力を深めるため、第1回の日米大学図書館会議（Japan-U. S. Conference on Libraries and Information Science in Higher Education）が東京で開催されたのは、1969年であった。第2回は会場をアメリカに移し、1972年ウイコンシン州ラシーンで開かれ、第3回が1975年10月28日から31日まで国立京都国際会館で開催された。

地もとの関係もあって、本館が同会議開催のための実行委員長として、市内及び近畿地区所在の各大学図書館の協力のもとに、会議の準備にあたった。

第3回会議のプログラムは次の通りである。

第1日（10月28日）

- 10.30-12.00 開会式（経過報告、祝辞）
- 13.30-14.30 基調報告
- 14.30-16.10 図書館の全国的ネットワーク
- 16.10-17.00 主題別の全国的ネットワーク
- 17.30-19.30 レセプション

第2日（10月29日）

- 10.00-12.00 図書館協力活動のための標準化
- 13.30-17.00 部会討議
 - 第1部会 図書館の全国的ネットワーク
 - 第2部会 図書館協力活動のための標準化

第3日（10月30日）

- 10.00-12.00 研究者の情報要求と図書館資料の発展
- 13.30-14.00 同上つづき
- 14.00-17.00 図書館の施設、建築と職員

第4日（10月31日）

- 9.30-12.00 部会討議
 - 第3部会 研究者の情報要求と図書館資料の発展
 - 第4部会 図書館の施設・建築と職員
- 13.30-15.00 全体会議（閉会式）

なお、参加者は米国側25名、日本側は286名であった。

経済学部「閲覧室だより」について

—— 定例閲覧室会議から誕生 ——

経済学部閲覧掛では第2・第4の月曜日、まだ利用者の少ない朝一番の僅かな時間を掛内での話し合いの場にあて、諸会議の報告や掛内でかかえている仕事上の色々な問題、また今後の仕事の進め方等について話し合うことにしているが、新館に移転して3年、約30万冊の蔵書をかかえ、古い歴史と慣行を持った我々の図書室では、ある面については改善し、或は整理していかなければならない蓄積された仕事が山積しており、現在の閲

覧掛ではこの話し合いの場は欠くことのできないものになっている。

昨年秋のある日の話し合いの時、掛員不足の現状での経済学部閲覧掛のあり方や役割について話が進んだ。意見百出、その中から皆が出した結論、それは色々な悪条件の中でも何とか利用者にとって使いやすい閲覧室でありたい。それにはどうすればよいか、先ず利用者とのコミュニケーションを良くすることも一つの方法であろう。しかし云